

福井県産【大麦・小麦】の
収量アップを目指して！！

フクギ情報

JA福井県
No.1

● 稲刈り前からの排水対策！！

水田を活用した麦類の栽培において、排水対策は成否(収量・品質)を左右する最も重要な要素です。湿害に弱い麦類のために水稻の収穫時期から排水対策を徹底しましょう。

1. 麦作は排水対策が最重要

① 湿害の防止

発芽不良や根腐れ、黄化など生育不良を起こします。

② 機械作業の効率化

播種時の播種量や施肥量が安定し、作業精度と効率を高めます。

③ 赤カビ病の抑制

湿度の高まりや生育不揃いによる赤カビ病の発生リスクを軽減します。

2. 排水対策の作業の流れ

【水稻収穫前】

- ・水稻の適期落水(稲刈り前から田を乾かす)

【耕起・播種前】

- ・心土破碎(サブソイラー等)を実施
- ・額縁明渠および中間溝の施工、排水口への接続

【播種時】

- ・播種時に崩れた溝の手直し

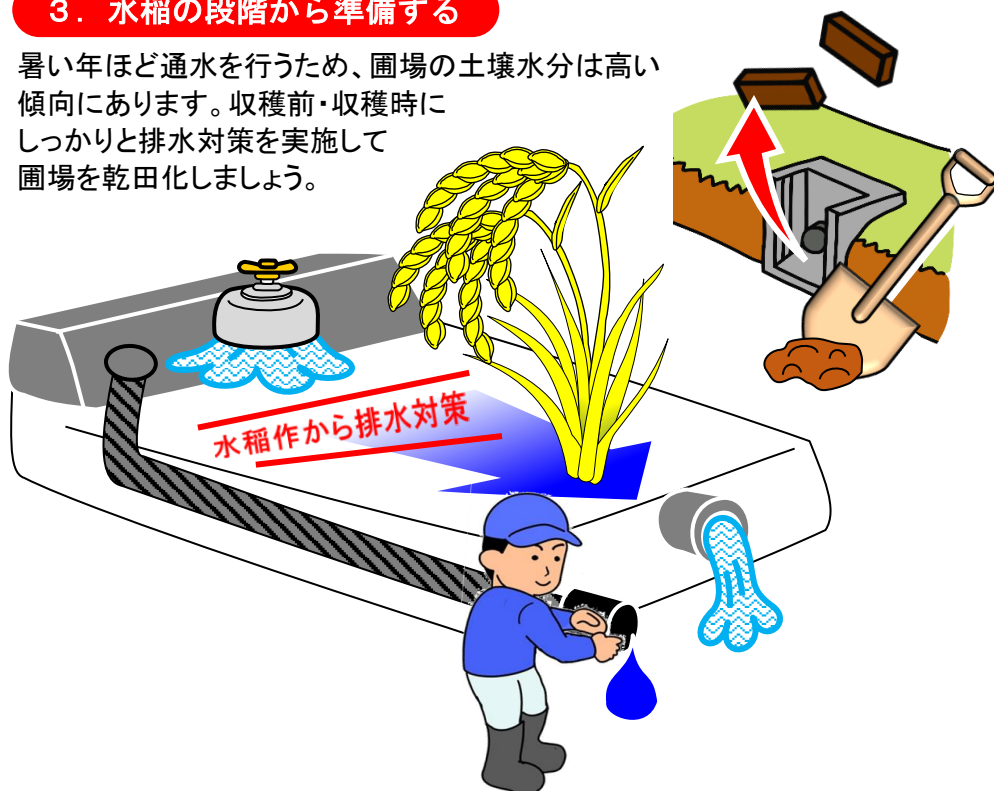
【生育期・生育中】

- ・大雨の後や融雪期に明渠の崩れ・つまりを定期点検・補修



3. 水稻の段階から準備する

暑い年ほど通水を行うため、圃場の土壌水分は高い傾向にあります。収穫前・収穫時にしっかりと排水対策を実施して圃場を乾田化しましょう。



① 刈取前の排水対策

間断通水終了後(刈取5～7日前)速やかに落水。また、排水マスの水量調整板は全部抜き取り、マスの底面まで掘り起こし排水性を高める。

② 暗渠排水の管理

間断通水の終了後は暗渠栓を開放する。また、暗渠が詰まっていないか確認する。

③ 刈取時の排水対策

稲刈り時にコンバインの急旋回でくぼみ(わだち)ができると、そこに水が溜まりやすくなります。